

データセンターあとがき

今年度も、全国の移植登録施設のみならず、関係者のみなさまのご尽力により、全国調査報告書が発行できることとなりました。

2014年1月に「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が施行され、これに基づき日本造血細胞移植データセンター（JDCHCT）が「造血幹細胞移植の患者やドナー情報の収集・分析」を国の支援のもと担うこととなり、7年が経過しました。2015年1月にリリースした第二世代移植登録一元管理プログラム（TRUMP2）は運用6年目となり、全国の300を超える移植診療科にて安定して利用されるようになりました。2020年1月にリリースされましたTRUMP version 2.4では、WHO疾患分類改訂や新規薬剤追加等を踏まえ、約600の新規調査項目が追加され、レジストリ調査項目としてさらに充実したものとなりました。2020年度全国調査では新規の調査項目が多い調査となりご苦労をおかけしたことと思いますが、全国の移植診療科のご尽力で、近年のなかでも最も登録施設数の多い調査実績となりました。

データ利用申請件数は増加、また多様化してきています。データ収集と管理およびデータの利用管理を担うJDCHCT造血細胞移植登録一元管理委員会、JSHCTワーキンググループ（WG）の運営とWGが実施する研究を管理するJSHCT造血細胞移植登録一元管理委員会の委員長、委員の方々にはこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。JSHCTワーキンググループ（WG）および、そのほかデータ利用申請による、TRUMPデータを用いた研究活動性の高さは、巻末のWG活動報告書や業績一覧でよくわかります。日本発の、TRUMPデータを用いた解析結果が多く出るようになり、これらが次の移植医療に反映されていく現状を踏まえましても、その質の担保にさらに力を入れていく責務を感じております。

細胞治療に関しては、急性GVHD治療のための間葉系幹細胞製品であるテムセル®HS注に関して厚生労働省および医薬品医療機器総合機構の再生医療等製品レジストリの役割を本全国調査にて担っており、平成29年度以降ホームページでのみ掲載する調査報告としてその実施状況を公開しています。遺伝子改変T細胞（CAR-T）治療などの新規細胞治療情報を収集するためのシステムとして、日欧米における相互互換性を有するレジストリ入力システムとして国際造血細胞移植研究機構（CIBMTR）のWeb登録システムFormsNetの日本語バージョンを開発し、2020年3月にリリースいたしました。全国の登録施設のみならず、関係者のみなさまが必要とされるものに、一つ一つ丁寧に取り組み、造血細胞移植と細胞治療の発展に、データセンターとして貢献ができるよう努力してまいります。引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

日本造血細胞移植データセンター	センター長	熱田由子
	システムグループ	坪井秀樹、浅野充洋
	統計解析グループ	倉田美穂、柳澤昌実
	データマネジメントグループ	伊藤千佳、坂井志帆、田畑藍 日沖友美、松原奈津希、前島菜月 小林静香、水谷典子
	法人管理部	松原有希、山田達也、酒井孝子 若杉雅美、中北みどり